

遠藤吉三郎

生誕140周年

日本藻類学会 2014

The 140th Birth Anniversary of Dr. KICHISABURO YENDO

The Japanese Society of Phycology 2014

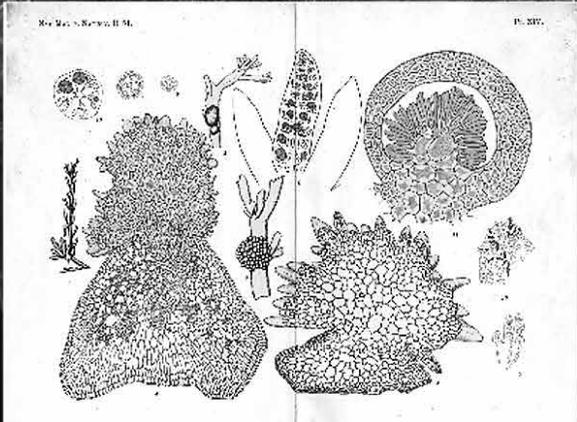


HERB. K. YENDO.

Cerallina vancouverensis Yendo
f. *lytica*.

June 1901.

Port-Roupre



遠藤吉三郎 生誕 140 周年

日本藻類学の黎明期を支えた遠藤吉三郎は 1874 年（明治 7 年）8 月 30 日に生まれ、今年が生誕 140 周年にあたる。そこで遠藤先生を記念する扉を制作した。

遠藤は札幌農学校水産学科（後に北海道帝国大学附属水産専門部）の初代教授で、明治・大正期の重要な水産植物学者である。1921 年（大正 10 年）3 月 14 日に満 46 歳の若さで亡くなったため、研究を行った期間は短かったが、学生時代を含む明治 35 年から大正 9 年までの 20 年弱の間に濃密な業績をあげた。その分野は分類学から水産学、対象とする生物は大型のホンダワラ類から微細な珪藻にまで及び、明治・大正の藻学界を岡村金太郎とともに牽引した。遠藤の視野は広く、生物学のみならず、文学、文明論、スポーツなどに一家言を持ち、教育^{註1}にも熱心であった（浜田 1980; 1988, 北山 2013）。

岡村（1927）は『海藻学ヲオヤリナサイ』という随筆で海藻学を北海道の開拓地にとえ、自分が道をつくり遠藤が村落をつくったという形容をした。岡村以上に、遠藤は野心的な藻学の開拓者であった。もし遠藤が肺結核に罹ることなく研究を続けていたら、昭和の藻類学はおそらくさらに広く大胆な展開をみせていたに違いない。

註 1) 遠藤の弟子には、赤塚孝三、小久保清治、井狩二郎らプラントン研究者のほか、海藻に成田清一がいる。

【略年譜】

- 1874 年 新潟県北蒲原郡中条町（現在の胎内市）に生まれる。
- 1891 年（17 歳）函館商業学校卒業。北海道炭礦鉄道会社入社。
- 1896 年（22 歳）第二高等学校中学予科に入学。
- 1898 年（24 歳）同校を卒業。東京帝国大学理科大学に入学。
- 1900 年（26 歳）結婚（妻：ミネ）。
- 1901 年（27 歳）同大大学院に入学。松村任三の指導を受ける。
- 1902 年（28 歳）“*Corallinae verae Japonicae*（日本産さんごも科植物録）”。米国産サンゴモの新種を発表。
- 1903 年（29 歳）『日本有用海産植物』。磯焼けを報告。
- 1905 年（31 歳）サンゴモ科のモノグラフを発表。
- 1906 年（32 歳）『実験隠花植物学』。
- 1907 年（33 歳）札幌農学校水産学科の初代教授に着任。
- 1909 年（35 歳）『莫語花』（ホンダワラ類のモノグラフ）。
- 1910 年（36 歳）珪藻の増大胞子について報告（赤塚孝三と共著）。
- 1911 年（37 歳）『海産植物学』。噴火湾の赤潮を報告。
欧州（英・独・ノルウェー）へ遊学。
- 1914 年（40 歳）帰国。『欧州文明の没落』。
- 1916 年（42 歳）『西洋中毒』。
- 1919 年（45 歳）『僕の家』。北海道帝国大学を退職。
アイヌワカメ属のモノグラフを発表。
『最新スキー術』（木原均と共著）。
- 1920 年（46 歳）“*Novae algae Japoniae*（日本産新海藻）”。
- 1921 年 肺結核のため療養地中の仙台で病死（享年 47）。

引用文献

- 浜田 稔 1980. 水産植物学者 遠藤吉三郎先生. 採集と飼育 42(11): 612—617.
- 浜田 稔 1988. 遠藤吉三郎. In: 木原均・篠遠喜人・磯野直秀（監修）：近代日本生物学者小伝. 平河出版社. 568 pp. 東京.
- 北山太樹 2013. 海藻標本採集者列伝 (2) 遠藤吉三郎 (1874—1921). 海洋と生物 35(2): 140—141.
- 岡村金太郎 1927. 海藻学ヲオヤリナサイ. 植物研究雑誌 4(2):35—39.

（国立科学博物館 北山太樹）



1. 30 代の頃の肖像。明治 40 年頃に札幌で撮影。（北海道大学理学部旧植物分類学教室所蔵）
2. 40 代の頃の肖像。普段は大学でも徹底して和服を着用し、洋装は珍しかったという。（北海道大学理学部旧植物分類学教室所蔵）
3. 標本ラベル。写真 4 の標本に貼付されたもの。（国立科学博物館所蔵）
4. *Corallina vancouveriensis* Yendo の標本。遠藤が 1901 年に採集。北米沿岸に広く分布し、現在も有効な学名である。（国立科学博物館所蔵）
5. エンドウモク *Sargassum yendoi* Okamura et Yamada の生態写真（須崎嵐留で筆者が撮影）。1938 年に岡村・山田が新種とし、種名・和名とも遠藤に献名された。遠藤に献名された海藻種名は 10 種を超える。
6. 遠藤吉三郎の一家。遠藤が外遊から帰国した直後の大正 3 年 6 月に撮影された。（岡村金太郎遺品。国立科学博物館所蔵）
7. ベンテンモ *Benzaitenia yenshimensis* Yendo (1913) の原記載の図。ノルウェー留学中に執筆し、滞在地 Kristiania（現在のオスロ）の雑誌に発表された（国立科学博物館所蔵）
8. 『実験隠花植物学』（初版）の扉。（筆者所蔵）
9. 『海産植物学』（初版）の表紙。（国立科学博物館所蔵）